

シートベルト着用に関する諸問題

(第2報、若年層のシートベルト着用意識)

高 行 男 ・ 小 駒 純 一

1 緒 言

シートベルトは、交通事故による死傷者数の増加という社会背景の下で、特に1960年代乗員保護装置として注目され、その地位を築いたものである。1970年代には、その着用を法規制する国々が登場するにもかかわらず、日本におけるその着用現状はよいとはいえない。これは、シートベルトが交通事故時の負傷を軽減させることに対する認識不足が大きな原因と考えられる。前報¹⁾では、以上の観点から、シートベルトの着用に関する諸事項を体系的に整理し、その重要性を説明するとともに、交通事故の当事者として重要な位置にいる若年層(18~24歳の年齢層)を構成する学生の着用現状と着用感に関するアンケート調査結果を報告した。

シートベルト着用の推進に当たっては、着用現状ならびに問題点を明確に把握しておく必要がある。着用問題に関する調査は既に種々の観点から行われている²⁾。しかし、若年層の着用問題について詳細に検討した報告は数少ないので、本論では、前報の結果¹⁾とその後に行ったアンケート調査結果を整理して若年層の着用に関する意識を検討する。

2 日本の交通事故状況

シートベルトは自動車事故時の乗員保護装置であるので、それに関連する交通事故状況について若干述べる。

日本における交通事故の全死者数と自動車乗員の死者数の推移を資料³⁾を基に図1に示した。図からわかるように、1970年以降交通事故の全死者数(△印)は顕著に減少してきたが、それに比べ自動車乗員(○印)の減少は著しくない。全死者数における自動車乗員の占める割合を求めると、その割合は高くなってきているので¹⁾、道路環境の整備とともにシートベルトによる乗員の保護対策が重要である。

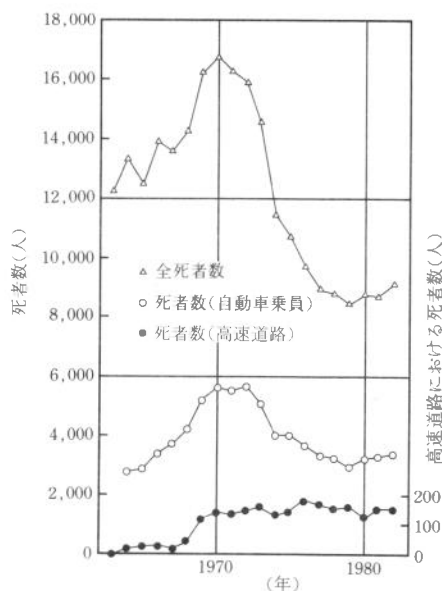


図1 交通事故死者数の推移

図1には、高速道路における事故発生状況を検討するため、高速道路における交通事故の死者数(●印)の推移も示してある。その数を自動車乗員の死者数と考え、全自動車乗員の死者数(○印)と比較すると、前者は後者の約5%となるので、自動車乗員の死者数において高速道路の占める割合は非常に低いといえる。

3 シートベルト着用に関するアンケート調査

大学生の着用状況と自動車教習所における教習生の着用感について調査を行い、若年層の着用意識を検討した。

3・1 シートベルトの着用状況

13の大学、1,005名の男子学生と1,046名の女子学生の着用状況を検討するため、(1)一般および高速道路における着用現状、(2)シートベルトの重要性の有無、(3)着用しない理由、(4)シートベルトの関心度、(5)着用による疲労軽減の有無について1982年に調査した結果を整理すると表1のようになる。以下に、この結果に基づき項目別に検討する。

3・1・1 着用率

着用割合を整理した結果を表2に示す。表より、若年層の着用率は高速道路と一般道路において顕著に異なり、一般道路におけるそれは非常に低いことがわかる。これは、若年層が一般道路における運転は生命の危険が少ないと誤った認識を持っていることが原因と考えられる。2章で述べたように、交通事故による自動車乗員の死者数の9割以上が一般道路において発生している現状を考慮すると、一般道路における着用率の低さは非常に問題がある。

3・1・2 重要性

シートベルトの重要性の有無についての回答割合を整理した結果を表3に示す。表から明らかのように、9割以上がその重要性を認めている。しかし、3・1・1項の着用率の結果を考えると、重要性の認識度合が問題であろう。

3・1・3 着用しない理由

3・1・1、3・1・2項より、シートベルトの重要性を認める割合に比べて着用率が低いので、着用しない理由について表4に整理した。表の右欄には1975年と1972年の調査結果^{4,5)}を示してある。表から明らかのように、調査学生の着用しない理由は、第一位に面倒が挙げられ、次に不快(拘束感)と忘れるという理由が同程度の割合であり、従来の調査結果と一致している。なお、若年層特有のものであるかもしれないが、かっこう悪さをその理由に挙げている割合は4%程度あった。

3・1・4 関心度

シートベルトに対する関心度をその種類を認識しているか否かによって検討した。その結果を表5に示す。表より、約6割がシートベルトの種類を識別しているが、その重要性を認める割合

表1 シートベルト着用状況に関するアンケート調査結果

項目	大学		A	B	C	D	E	F	G		H	I	J	K	L	M	全		体
	男	女																	
性別	380	178	75	60	88	58	117	49		114	44	87	183	266	322	1005	1046	2051	
							30												
運転歴	295	41	67	49	58	45	4	4	27	79	25	75	95	150	271	586	699	1285	
	1年未満																		
使用状況	59	94	5	3	17	5	17	15	11	23	6	6	52	50	44	211	196	407	
	1~2年																		
使用状況	23	42	0	8	10	8	93	11	11	11	13	2	35	62	0	195	134	329	
	2年以上																		
使用状況	3	1	3	0	3	0	3	0	0	1	0	4	1	4	7	13	17	30	
	無記入																		
使用状況	19	17	5	11	6	17	17	6	5	15	6	11	41	36	51	97	166	263	
	常用																		
使用状況	74	50	15	24	24	14	38	8	9	19	14	17	45	70	80	248	253	501	
	ときどき																		
使用状況	275	106	53	25	58	27	58	16	34	79	24	57	97	158	189	636	620	1256	
	しなない																		
使用状況	12	5	2	0	0	0	4	0	1	1	0	2	0	2	2	24	7	31	
	無記入																		
使用状況	80	55	23	24	39	27	58	14	12	23	13	22	66	76	93	318	307	625	
	常用																		
使用状況	76	42	13	8	25	6	25	5	13	13	3	7	24	35	41	208	128	336	
	ときどき																		
使用状況	189	67	31	16	23	12	26	6	18	39	11	30	36	67	83	382	272	654	
	しなない																		
使用状況	35	14	8	12	1	13	8	5	6	39	17	28	57	88	105	97	339	436	
	無記入																		
使用状況	368	170	74	56	83	55	111	30	47	110	44	87	179	258	312	964	1020	1984	
	あ																		
使用状況	10	6	1	4	4	3	4	0	2	4	0	0	4	5	8	34	21	55	
	いな																		
使用状況	2	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2	7	5	12	
	無記入																		
使用状況	61.35	27.2	18.8	5	21.6	5.85	20.05	9.5	9.1	15.75	9.3	13.9	16.8	47.3	57.55	168.95	170.1	339.05	
	均束感																		
使用状況	201.85	91.7	28.3	28	33.1	20.35	46.55	9.3	22.1	50.75	9	42.4	64.3	97.8	106.15	471.95	379.7	851.65	
	面倒																		
使用状況	63.35	25.7	16.8	11	10.3	9.05	14.5	3.3	6.1	19.25	14.3	12	43.3	52.5	67.65	156.8	212.3	369.1	
	忘れ																		
使用状況	15.25	9	1	0	2.8	2.55	3.55	0.3	2.5	5.5	1.3	3.9	2.5	7.3	15.85	50.9	71.9	122.8	
	かっこうが悪い																		
使用状況	38	24	10	16	17	19	25	6	6	18	8	13	50	51	64	155	210	365	
	その他																		
使用状況	187	127	35	24	73	45	99	25	38	83	19	47	130	183	202	628	689	1317	
	わからない																		
使用状況	111	31	34	32	12	8	15	2	7	19	8	27	33	51	73	250	213	463	
	3点式(不明)																		
使用状況	82	20	6	4	3	5	3	3	4	12	17	13	20	32	47	127	144	271	
	わからない																		
使用状況					8	4	8	0	2	0	3	2	6	6	4	22	21	43	
	あ																		
使用状況					43	25	55	16	19	37	24	26	96	125	159	142	483	625	
	な																		
使用状況					15	3	20	5	8	23	5	11	13	38	27	46	122	168	
	かえって増す																		
使用状況					22	26	34	9	20	54	12	48	68	97	132	102	420	522	
	無記入																		

*印の項目において一人で二箇所以上回答してある場合、その数で1を割った値を記した。

表2 シートベルト着用現状 (%)

使用状況		A	B	C	D	E	G			H	I	J	K	L	M	全 体			
																男	女	計	
一 道 般 路	常 用	5.2	9.8	6.9	18.3	6.8	29.3	15.1	20.0	10.4	13.3	13.6	12.9	22.4	13.6	15.9	9.9	16.0	13.0
	ときどき	20.1	28.9	20.5	40.0	27.3	24.1	33.6	26.7	18.8	16.8	31.8	20.0	24.6	26.5	25.0	25.3	24.3	24.8
	しない	74.7	61.3	72.6	41.7	65.9	46.6	51.3	53.3	70.8	69.9	54.6	67.1	53.0	59.9	59.1	64.8	59.7	62.2
高 道 速 路	常 用	23.2	33.5	34.3	50.0	44.8	60.0	53.2	56.0	27.9	30.7	48.2	37.3	52.4	42.7	42.9	35.0	43.4	38.7
	ときどき	22.0	25.6	19.4	16.7	28.7	13.3	22.9	20.0	30.2	17.3	11.1	11.9	19.0	19.7	18.9	22.9	18.1	20.8
	しない	54.8	40.9	46.3	33.3	26.5	26.7	23.9	24.0	41.9	52.0	40.7	50.8	28.6	37.6	38.2	42.1	38.5	40.5

表3 シートベルトの重要性に対する回答割合 (%)

重要性	A	B	C	D	E	F	G			H	I	J	K	L	M	全 体		
																男	女	計
あ る	97.4	96.6	98.7	93.3	95.4	94.8	96.5	100.0	95.9	96.5	100.0	100.0	97.8	98.1	97.5	96.6	98.0	97.3
な い	2.6	3.4	1.3	6.7	4.6	5.2	3.5	0	4.1	3.5	0	0	2.2	1.9	2.5	3.4	2.0	2.7

表4 シートベルトを着用しない理由に対する回答割合 (%)

理 由	A	B	C	D	E	F	G			H	I	J	KK	L	M	全 体			文献(4)	文献(5)
																男	女	計		
拘束感	17.9	17.7	29.0	11.4	30.5	15.1	21.8	39.7	21.3	16.4	25.9	18.9	12.7	22.0	22.4	19.9	20.4	20.2	12.9	14.6
面倒	59.1	59.7	43.6	63.6	46.8	52.4	50.6	38.9	51.6	52.9	25.1	57.5	48.6	45.5	41.3	55.6	45.5	50.6	40	47.3
忘れる	18.5	16.7	25.9	25.0	14.5	23.3	15.8	13.8	14.3	20.1	39.8	16.3	32.7	24.4	26.3	18.5	25.5	21.9	10.3	—
かっこうが悪い	4.5	5.9	1.5	0	4.0	6.6	3.9	1.3	5.8	5.7	3.6	5.3	1.9	3.4	6.1	6.0	8.6	7.3	10.3	—
その他					4.2	2.6	7.9	6.3	7.0	4.9	5.6	2.0	4.1	4.7	3.9					

表5 シートベルトに対する関心度 (%)

シートベルトの種類	A	B	C	D	E	F	G			H	I	J	K	L	M	全 体		
																男	女	計
わかっている	49.2	71.4	46.7	40.0	83.0	77.6	84.6	83.3	77.5	72.8	43.2	54.0	71.1	68.8	62.7	62.5	65.9	64.2
3点式(不明)	29.2	17.4	45.3	53.3	13.6	13.8	12.8	6.7	14.3	16.7	18.2	31.0	18.0	19.2	22.7	24.9	20.3	22.6
わからない	21.6	11.2	8.0	6.7	3.4	8.6	2.6	10.0	8.2	10.5	38.6	15.0	10.9	12.0	14.6	12.6	13.8	13.2

と比較すると、関心度は高いとはいえない。

3・1・5 疲労軽減効果

シートベルトは運転者の姿勢を安定し余分な動作を防ぎ注意力を集中させるので、その着用は運転による疲労をかなり軽減するといわれている⁹⁾。しかし、この効果は定量的な把握の困難さとともに個人差のある事柄であるので、調査を行いその回答割合を表6に示した。表より、軽減を認める割合は1割以下と低く、それに比べ疲労をかえって増す回答割合が2割と高いことから、本調査結果においては、その効果は明確に認められなかった。

表6 シートベルトの疲労軽減に対する回答割合 (%)

疲労軽減	E	F	G		H	I	J	K	L	M	全 体			
											男	女	計	
あ る	12.1	12.5	9.6	0	6.9	0	9.4	5.1	5.2	3.5	2.1	10.5	3.3	5.1
な い	65.2	78.1	66.3	76.2	65.5	61.7	75.0	66.7	83.5	74.0	83.7	67.6	77.2	74.8
かえって増す	22.7	9.4	24.1	23.8	27.6	38.3	15.6	28.2	11.3	22.5	14.2	21.9	19.5	20.1

3・2 シートベルトの着用感

1973年よりシートベルトの着用が義務付けられた自動車教習所における教習生443名(若年層は305名)に対し(1)着用感、(2)シートベルトの重要性の有無、(3)免許取得後の着用意識について調査した。調査はある自動車教習所において1982年の夏と冬に行ったが、各調査結果は同じ傾向を有していたので整理した結果を表7に示した。以下に、この結果に基づき項目別に検討するが、年齢層別および男女の別の観点からも若干述べる。

3・2・1 着用感(着用に伴う意識変化)

シートベルトを最初および数回使用したときの着用感について検討するため、表7の着用感の項目を拘束感と面倒という内容で整理し、その結果を表8に示した。表より明らかなように、最初にシートベルトを使用したとき、約5割が拘束感を認め、拘束感が第一位になっている。しかし、数回着用した後は、拘束感を認める割合は3割以下と著しく減少し、その傾向は女性の方が男性より顕著である。次に、面倒と感じる割合について検討すると、最初にシートベルトを使用したとき3割弱が面倒と感じているが、数回着用した後は、その割合は2割程度となり、上記の拘束感のような顕著な減少はみられない。また、面倒と感じる割合を年齢層別と男女の別で考えると、若年層および男性が面倒と感じている割合が高いようである。

以上の着用感に関する調査結果と3・1節、表4の着用しない理由の回答割合を比較すると、後者では、その理由として面倒が第一位に挙げられ、その割合が非常に高く、前者の傾向と著しく相違する。これは、後者の結果がシートベルトを実用しないで判断していることが主な原因であると推察される。このことと関連して、従来着用については否定的な面が強調されすぎたように思われる。すなわち、表7においてE項の着用時に拘束感もなく面倒でもないとする回答割合は、最初の着用時の1割強から数回の着用によって2割強に増加し、拘束感や面倒という意識がシートベルトの使用に伴い低下する。さらに、着用すると落ち着きができるという着用を肯定する割合がかなり高いことも認識する必要がある。この割合は、表のF項から最初の着用時に約1割であるが、数回着用後には3割程度と上昇しており、また、この上昇割合は女性の方が男性より高いことがわかる。これらの結果は、従来指摘されていないようだが、注目すべき事柄であると考えられる。

しかしながら、拘束感や面倒という意識によって、着用を否定する割合が低いながら存在するので検討する。表7の着用感の項目を着用したくないという内容で整理した結果を表9に示す。表より、最初の着用時に比べ数回着用した後は、着用したくないとする割合は若干低下するが、全体の1割ぐらゐを占めており、また、この割合は男性および若年層において高い傾向があることがわかる。このことは、シートベルト着用に関する問題点の一つとなると考えられるが、9割という大多数の者が着用を否定しない事実は、着用推進に当たり重要な事柄である。

3・2・2 重 要 性

表7の重要性の項目からわかるように、調査対象者全員がシートベルトの重要性を認めている。

表7 シートベルト着用感に関するアンケート調査結果

項目	18~24歳						25~34歳						35歳以上						全					
	男		女		小計		男		女		男		女		男		女		男		女			
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%		
着用	A. 拘束感があり着用したくない	16.8	12.1	15	12.6	31.8	12.3	0	0	3.5	7.8	1	7.7	0.5	1.1	17.8	11.0	19	9.0	36.8	9.8			
	B. 拘束感はあるが着用してもよい	54.3	39.1	51.5	43.3	105.8	41.0	5.3	53.6	13	28.9	5	38.4	19	39.6	64.6	39.9	83.5	39.4	148.1	39.6			
	C. 面倒なので着用したくない	7.3	5.3	7.5	6.3	14.8	5.8	1	10.1	2.5	5.6	1	7.7	0	0	9.3	5.8	10	4.7	19.3	5.2			
	D. 面倒だが着用してもよい	31.5	22.7	15.5	13.0	47	18.2	1.3	13.1	6	13.3	2	15.4	10	20.8	34.8	21.5	31.5	14.8	66.3	17.7			
	E. 拘束感もなく面倒でもない	16	11.5	18.5	15.6	34.5	13.4	1	10.1	13	28.9	2	15.4	5	10.4	19	11.8	36.5	17.2	55.5	14.9			
	F. 着用すると落ち着きかたで	11	7.9	11	9.2	22	8.5	1.3	13.1	7	15.5	2	15.4	12.5	26.0	14.3	8.8	30.5	14.4	44.8	12.0			
	G. その他	2	1.4	0	0	2	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.2	1	0.5	3	0.8			
着用後	無記入	27		20		47		1	8	1	12	29	69					40						
	A. 拘束感があり着用したくない	7	4.3	0	0	7	2.4	0	0	1	1.9	0	0	0.25	0.4	7	3.8	1.25	0.5	8.25	1.9			
	B. 拘束感はあるが着用してもよい	45.5	28.3	30.4	22.6	75.9	25.7	5	55.6	5.25	10.1	2.8	23.6	6	10.5	53.3	29.3	41.65	17.1	94.95	22.3			
	C. 面倒なので着用したくない	12	7.4	6.5	4.8	18.5	6.2	0	0	0	0	1	8.4	0.25	0.4	13	7.1	6.75	2.8	19.75	4.7			
	D. 面倒だが着用してもよい	32	19.9	16.1	11.9	48.1	16.3	0	0	3.25	6.3	1.8	15.1	4.25	7.5	33.8	18.6	23.6	9.7	57.4	13.5			
	E. 拘束感もなく面倒でもない	39	24.2	33.1	24.6	72.1	24.4	2	22.2	13.25	25.5	2.3	19.3	11.25	19.8	43.3	23.8	57.6	23.6	100.9	23.7			
	F. 着用すると落ち着きかたで	22.5	14.0	48.6	36.1	71.1	24.0	2	22.2	29.25	56.2	4	33.6	35	61.4	28.5	15.7	112.85	46.3	141.35	33.2			
G. その他	3	1.9	0	0	3	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1.7	0	0	3	0.7				
重要性	無記入	5		4		9		2	1	2	3	9	17					8						
	A. あると思う	166	100	139	100	305	100	11	100	53	100	14	100	60	100	191	100	252	100	443	100			
	B. ないと思う	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
着用意	無記入	0		0		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	A. 常用するつもり	84	54.5	91	74.0	175	63.2	7	77.8	49	100	10.5	87.5	57.5	99.1	101.5	58.0	197.5	85.9	229	73.8			
	B. 時々使用するもの	64	41.6	30	24.4	94	33.9	2	22.2	0	0	1.5	12.5	0.5	0.9	67.5	38.6	30.5	13.2	98	24.2			
	C. 使用しないつもり	6	3.9	2	1.6	8	2.9	0	0	0	0	0	0	0	0	6	3.4	2	0.9	8	2.0			
	無記入	12		16		28		2	4	2	16	22	38											
	A. 常用するつもり	141	87.0	129	94.2	270	90.3	8	88.9	53	100	13	100	55	98.2	162	88.1	237	96.3	399	92.8			
	B. 時々使用するつもり	21	13.0	8	5.8	29	9.7	0	0	0	0	0	0	0	0	21	11.4	8	3.3	29	6.7			
C. 使用しないつもり	0	0	0	0	0	0	1	11.1	0	0	0	0	1	1.8	1	0.5	1	0.4	2	0.5				
無記入	4		2		6		2	0	0	0	1	4	7				6							

*印の項目において一人で二箇所以上回答している場合、その数で1を割った値を記した。

表8 シートベルト着用時における拘束感と面倒の意識割合(%)

着用時		18~24歳			25~34歳		35歳以上		全 体		
		男	女	小計	男	女	男	女	男	女	計
最 初	拘束感	51.2	55.9	53.3	53.6	36.7	46.1	40.7	50.9	48.4	49.4
	面 倒	28.0	19.3	24.0	23.2	18.9	23.1	20.8	27.3	19.5	22.9
数回後	拘束感	32.6	22.6	28.1	55.6	12.0	23.6	10.9	33.1	17.6	24.2
	面 倒	27.3	16.7	22.5	0	6.3	23.5	7.9	25.7	12.5	18.2

表9 シートベルト着用の拒否割合(%)

着用時		18~24歳			25~34歳		35歳以上		全 体		
		男	女	小計	男	女	男	女	男	女	計
最 初		17.4	18.9	18.1	10.1	13.4	15.4	1.1	16.8	13.7	15.0
数回後		11.7	4.8	8.6	0	1.9	8.4	0.8	10.9	3.3	6.6

3・2・3 シートベルト着用の意識と現状

一般および高速道路において、免許取得後の着用意識を検討する。調査結果は表7に示してある。表の着用意識の項目より、着用の意識割合は着用現状の調査結果(表2)に比べて著しく高くなっているが、一般道路における着用意識は高速道路におけるそれより低くなっており、定性的には現状と同じ傾向を示していることがわかる。また、着用意識を年齢層および男女の別で検討すると、その意識は、若年齢層が他の年齢層より低く、男性が女性より低いことがわかる。この結果は、3・2・1項において着用感について年齢層と男女の別で検討した内容と同じ傾向を示しており、着用感が着用意識を決定している大きな要因であると推察される。

着用意識が着用現状に反映される一例として、男女の着用率の相違について述べる。3・1節、表2より、一般および高速道路における男子学生の着用率はそれぞれ9.9、35.0%に対し女子学生のそれは16.0、43.4%と女子学生の着用率が男子学生のそれに比べ高くなっている。また、1978年の高速道路における調査結果⁷⁾によると、男性の着用率が15.4%に対し女性のそれは19.3%であり、女性の着用率が男性のそれより高い。この傾向は、アメリカ⁸⁾とイギリス⁹⁾で行われた調査結果においても認められる。

3・3 免許取得後の着用率の推移

免許取得後の着用率の推移を検討するため、3・1節、表1の着用状況の調査結果を適当な期間で整理した。その結果を表10に示す。これに基づき、一般および高速道路における着用率の推移を図示すると、図2のようになる。女子学生の着用率は男子のそれに比べ若干高いが、両者の推移傾向は同じであったので、図にはまとめて示してある。また、

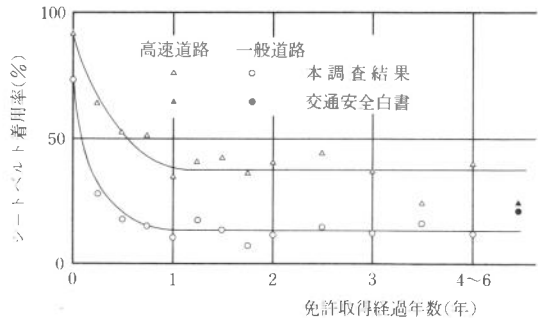


図2 免許取得経過年数に伴うシートベルト着用率推移

表10 免許取得の経過に伴う着用状況の調査結果

着用状況		3か月以内	4～6か月	7～9か月	10～12か月	13～15か月	16～18か月	19～21か月	22～24か月	25～27か月	28～30か月	31～33か月	34～36か月	37～42か月	43～72か月
一般道路	常用	72	39	10	41	5	15	1	21	1	4	0	19	2	10
	ときどき	82	61	14	93	5	29	4	53	4	5	3	39	2	23
	しない	109	129	44	279	19	67	11	119	0	18	1	103	9	49
	無記入	0	0	0	5	0	2	0	3	0	0	0	1	0	3
高速道路	常用	94	78	19	115	10	38	5	69	3	10	1	53	3	30
	ときどき	15	18	7	74	5	23	4	43	0	5	0	32	5	22
	しない	38	54	11	146	10	30	5	60	0	8	1	58	4	23
	無記入	116	79	31	83	4	22	2	24	2	4	2	19	1	10

図の免許取得時の着用率は表7の結果を用いた。図より、一般および高速道路における着用率は、ともに免許取得後1年ぐらゐまで順次低下して収束する傾向を示すことがわかる。

図の右端には、収束した着用率と比較するため、交通安全白書に報告されている1982年の調査結果²⁾の平均値を示した。両者を比較すると、3・1・1項で述べたように、若年層の着用現状が一般道路と高速道路において著しく相違していることがわかる。

3・4 シートベルト強制着用法

1970年代罰則を伴う法規制によってシートベルトの着用を推進する国々が登場する。日本においては、まだこの強制着用法が施行されていない。しかし、2章で述べた自動車乗員の死者数の推移から、施行は重要な検討課題であると考えられるので、アンケート調査によって強制着用法に対する意識を若干検討した。

調査は、1983年の夏に3・2節で述べた自動車教習所における教習生に対して、(1)強制着用法の施行国に対する知識の有無、(2)日本における強制着用法の施行に対する可否について行った。得られた調査数を考慮して、94名の若年層に対する結果を整理し表11に示す。以下に、この結果に基づき項目別に検討する。

表11 強制着用法に関する意識調査

項目	男	女	合計	
	数	数	数	%
強制着用法(罰則を伴う)を施行している国があること				
A. 知っている(国名; 例えば)	6	2	8	8.6
B. 初めて聞く	49	36	85	91.4
日本で強制着用法を施行すること				
A. 賛成	14	14	28	30.1
B. 反対……(理由;)	6	0	6	6.5
C. どちらでもよい	35	24	59	63.4

3・4・1 強制着用法に対する認識度

表11より、強制着用法の施行国に対する知識を有する者は全体の1割以下と非常に低いことがわかる。このことは、日本におけるシートベルト着用推進運動が不十分な状況にあることを意味

しているものと考えられる。

3・4・2 強制着用法の施行に対する可否

表11からわかるように、強制着用法の施行に対する拒否割合は全体の1割以下と低く、施行を賛成する割合の $\frac{1}{2}$ 以下である。一方、6割強が施行に対してどちらでもよいと回答している。この割合の高さは、3・4・1項の強制着用法に対する認識の低さと関係するものであろうが、施行を拒否しないことはシートベルトの重要性を認めているためと考えられる。

施行に対してどちらでもよいとの回答割合を反対しないという点から賛成という割合に含めると、9割強が施行に対して拒否しないことになる。この割合は、1976年にシートベルトを着用している131名に対して行った調査結果¹⁰⁾と同程度であり、著者らの調査前の予想以上に高いので、今後さらに検討を行いたい。

4 結 言

本論では、若年層を構成する学生を主な対象としてシートベルト着用に関する意識をアンケート調査に基づき検討した。主な結果をまとめると次のようになる。

1. 9割以上がシートベルトの重要性を認めているが、シートベルト自体に対する関心度は6割程度とあまり高くない。
2. 9割程度が、シートベルトの着用感においてその着用を否定せず、また強制着用法の施行に対して拒否しない。
3. 着用率は、一般道路で13.0%、高速道路で38.7%と両道路において顕著に異なり、シートベルトの重要性を認める割合に比べ著しく低い。
4. 着用率は免許取得後一年ぐらまで順次低下して収束する傾向を示す。
5. 着用しない主な理由は面倒や拘束感である。しかし、その意識は着用に伴って減少するので、その理由は決定的なものでないと考えられる。
6. 着用は精神を落ち着かせるという肯定面があるが、着用による運転疲労の軽減効果は明確に認められなかった。
7. 女子学生の着用率は男子学生のそれに比べ高い。

終わりに、本論をまとめるにあたり御助言を賜った本学客員教授近藤政市東京工業大学名誉教授に謝意を表すとともに、御協力をいただいた本学水野敏明助教授、脇俊隆講師、日本ライン自動車学校中村好延氏、椛山女学園大学林千代子教授、愛知淑徳大学布目和夫教授、名古屋女子大学水谷静子教授、名古屋芸術大学大橋廣講師、名古屋保健衛生大学趙秀采助教授、名古屋市立大学竹中昭助教授をはじめとする関係各位に深く感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 高・小駒, 中日本自動車短期大学論叢, 13 (1983), 23。
- 2) 総理府編, 交通安全白書 (昭和46~58); 陸上における交通事故 (昭和41~45)。
- 3) 例えば, 城下, シートベルト国際シンポジウム論文集, (1979), 73; 長山, 同上, p. 95。
- 4) 藤居・加美山・松丸, 自動車技術, 30-11 (1976), 913。
- 5) 三角, 自動車用シートベルト, (1979), 116, 自費出版。
- 6) 例えば, 日刊自動車新聞, 昭和57年4月6日付記事。
- 7) 文献5, p. 123。
- 8) 文献5, p. 73。
- 9) Prentice, H. A., シートベルト国際シンポジウム論文集, (1979), 24。
- 10) 浅井, シートベルト国際シンポジウム論文集, (1979), 35。